

わくわくとしょかん

第 148 号(2018年秋号)編集発行:福島市立図書館児童室 でんわ531-6551

としょかんからのお知らせ

●どようびのおはなしかい●

まいしゅう どようび

1かい じどうしつ

ごご2じから

4さいしょうがくせい~小学生

●おひざにだっこのおはなしかい●

まいつき だい3 もくようび

1かい じどうしつ

ごぜん10じ30ぷんから

3さいまでのこお子さんとほごしゅ保護者

●ファミリー映画会●

まいつき だい2 にちようび

3かい かいぎしつ

ごご2じから

あそびに

きてね!

としょかんカレンダー



日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

福島市立図書館のお休みです。

子どもライブラリーのお休みです。

学習センター図書室については、各学習センターにお問い合わせください。



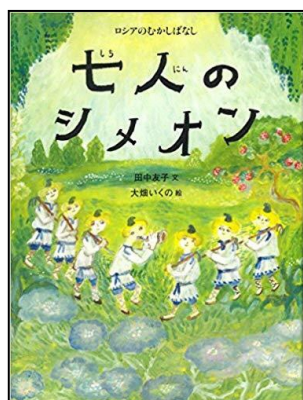
あたらしいほん



E (えほん)

『七人のシメオン』 (E オオハ)

田中 友子/文 大畑 いくの/絵 BL出版



顔もせたくもそっくり、名前もおなじ「シメオン」の七人兄弟。船のりや笛ふきなど、それぞれとくべつなわざをもっています。ある日王さまのめいれいで、海のむこうの島の、美しいエレナひめをむかえに行くことになり…。

ロシアのふしぎな昔話です。

『ぼくのなまえはへいたろう』 (E トノウ)

灰島 かり/文 殿内 真帆/絵 福音館書店



ぼくのなまえは「へいたろう」。むかしの人みたいってからかわれるから、あまりすきじゃない。おとうさんはどうしてぼくに、このなまえをつけたの？ よそのくにではなまえってどうつけるの？ なまえっていったいなんだろう？ なまえについてかんがえる絵本。

『ソフィーとちいさなおともだち』 (E ウイル)

パット・ジトロ・ミラー/文 アン・ウィルズドルフ/絵 二宮 由紀子/訳 光村教育図書

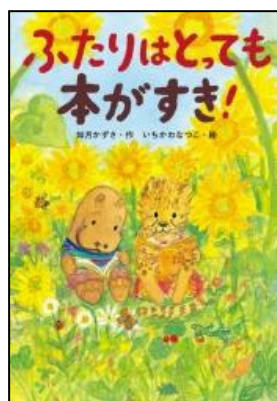


ソフィーのおともだちは、ピザになるはずだったカボチャのバーニス。ふたりはいつもいっしょです。でも、バーニスはだんだんやわらかくなってきて、でんぐりがえしもじょうずにできなくなってしまいました。バーニスをげんきにするためにはどうしたらいいのでしょうか？

Y (よみもの)

『ふたりはとっても本がすき！』 (Y913 キサラ)

如月 かずさ/作 いちかわ なつこ/絵 小峰書店



チーターのチッタとカバのヒポは本がだいすきな友だちどうし。けれども、はやく、たくさんよむチッタと、1さつをじっくりよむヒポとではよみ方がぜんぜんちがいます。ある日、かんそうぶんのしゅくだいが出され、なやんだ二人はそうだしませんが…。

『たかが犬、なんて言わないで』 (Y949 フロデ)

リブ・フローデ/作 木村 由利子/訳 柴田 文香/絵 文研出版



大好きだった愛犬が突然死んでしまい、悲しみにくれるヤコブ。こんな思いをするなら二度と犬なんて飼わない！ そう思っていたが、夏休みに訪れた海辺の村で一匹の野良犬に出会う。はじめはお互いを警戒していた犬とヤコブだが、少しずつ絆を深めていく。

『兄ちゃんは戦国武将！』 (Y913 ササキ)

佐々木 ひとみ/作 浮雲 宇一/画 くもん出版



春樹の家に突然届いた「伊達政宗」からの手紙。その正体は大学を辞めてから音信不通になっていた兄の夏樹だった。夏樹は仙台で「杜乃武将隊」として活動しているらしい。「大学を出たら家へ帰ってくる」という約束を破った兄を許さない春樹は仙台へと向かうが…。

B (そのた)

『わたしのくらし世界のくらし』 (B38 ラマス)

マット・ラマス/作・絵 おおつか のりこ/訳 汐文社



日本、イタリア、ウガンダ、ロシア、インド、ペルー、イラン。7つの国に住む7人の子どもたち。それぞれの国のくらしを1日の流れにそってのぞいてみよう。住むところ、食事、学校…他の国ではどんな風にくらししているのかな？

『クルミの森のニホンリス』 (B48 ユウキ)

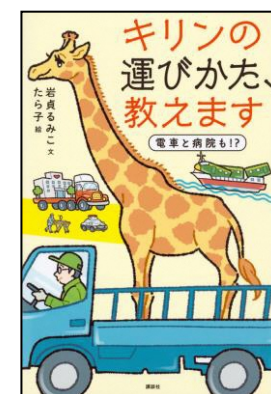
ゆうき えつこ/文 福田 幸広/写真 小学館



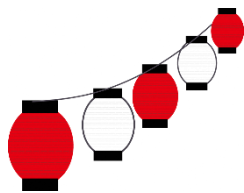
リスはクルミが大好きです。クルミを口にくわえたまま、ジャンプすることもできます。この本には長野県にある、八ヶ岳山麓というクルミの森に住むリスの1年間が描かれています。あなたもリスの生活をのぞいてみませんか？

『麒麟の運びかた、教えます』 (B68 イワサ)

岩貞 るみこ/文 たら子/絵 講談社



盛岡から上野動物園へお嫁入りすることになった麒麟のリンゴ。さて、身長3.5メートルのリンゴを、どうやって上野まで運んだのでしょうか？ 麒麟に電車、病院まで、「運ぶ」仕事のプロたちの活躍を紹介します。



まつ ほん お祭りの本



『はたけのカーニバル』 (E タシマ)

田島 征三／作 童心社

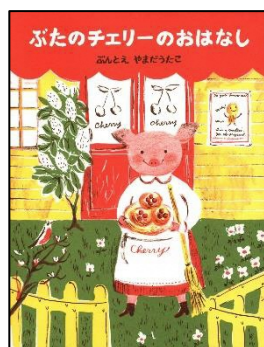
おじいさんがむらまつりにでかけていくと、はたけでもまつりがはじまりました。プチトマトのジャグリングにゴーヤのブレイクダンス…。おじいさんがそだてたげんきなやさいたちで、はたけのなかはおおにぎわいです。



『ぶたのチェリーのおはなし』 (E ヤマダ)

やまだ うたこ／ぶんとえ 借成社

ぶたのチェリーは、おかしをつかってたべるのがだいすき。あるひ、ねずみのかぞくがチェリーのケーキをつまみぐいして「これは すごい！」といいました。それをきいたチェリーは、しゅうかくさいでひらかれるおかしコンテストで、りんごケーキをつくることにしました。



『ちょうちんまつり』 (E ジョウ)

唐 亜明／文 徐 楽楽／絵 福音館書店



ちょうちんまつりの日、はたけしごとをおえた王七は、ほらあなで碁をうつふたりの老人を見つけました。碁をむちゅうでみていた王七。しかし、老人たちの白いひげが、いつのまにかながくのびていることにきがつきます。きみがわるくなった王七は、いそいで家にかえろうとしますが…。



『つな引きのお祭り』 (B38 キタム)

北村 皆雄／文 関戸 勇／写真 高頭 祥八／絵 福音館書店

1本のつなを2つのチームに分かれて引き合うつな引きは、運動会でおなじみです。このつな引きは、昔からお祭りとしても日本中のいりんなところでおこなわれてきました。昔の人たちはどんな思いでつなを引っぱり合ったのでしょうか。つなを作るところやお祭りのようすを、写真とイラストでわかりやすくしょうかいします。

